

高校教育改革推進本部会議

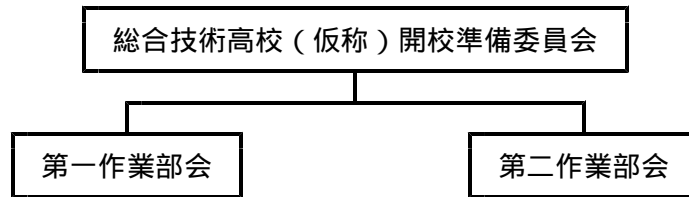
資料集

徳島科学技術高校の開校準備	1 ページ
オンリーワンハイスクール パワーアップ事業	2 ページ
SSH(城南高校)	3 ページ
SELHi(名西高校,富岡西高校)	5 ページ
進路指導・学力向上重点校	7 ページ
学力向上拠点形成事業(高等学校)	11 ページ
目指せスペシャリスト(スーパー専門高校)	15 ページ
高校再編の進捗状況	16 ページ
携帯電話の利用についての注意	18 ページ
徳島県学校改善支援プラン	19 ページ
徳島県教育振興計画の概要	22 ページ

徳島科学技術高校の開校準備

徳島科学技術高校開校に向けた準備を進めるため、関係高校の校長をはじめ教員などから組織された「開校準備委員会」、また、その下部組織に第一作業部会、第二作業部会を設置し、具体的統合内容検討に取り組んでいる。

平成19年度 開校準備委員会組織



第一作業部会

- 1 教育計画
- 2 生徒募集
- 3 生徒指導
- 4 諸規定・様式 等

第二作業部会

- 1 庶務関係
- 2 施設・設備
- 3 制服 等

1 今年度の開校に向けた取り組み

- (1) 5月30日(水) 第7回開校準備委員会
座長決定、今年度のスケジュール 等
- (2) 6月21日(木) 徳島県立新設統合高等学校校名候補選定委員会設置
徳島県立新設統合高等学校校名募集要領
- (3) 6月22日(金) 6月定例教育委員会「定時制工業科について、校名について」
- (4) 7月3日(火) 第1回新設統合高等学校校名候補選定委員会開催
- (5) 7月12日(木) 第8回開校準備委員会
校名(候補選定委員会の組織編制)、予算(備品購入等)について
21年度入学者選抜委員会の組織編制案について
- (6) 7月20日(金)～8月31日(金) 「校名募集」
- (7) 8月23日(木) 起工式
- (8) 9月26日(水) 第2回新設統合高等学校校名候補選定委員会開催
- (9) 10月29日(月) 10月定例教育委員会「新設統合高等学校校名選定について」
『徳島県立徳島科学技術高等学校』と決定
- (10) 11月7日(水) 第9回開校準備委員会
校名決定、開校準備委員会要綱の改正 等
- (11) 11月12日(月) 11月定例教育委員会
徳島県立学校設置条例の一部を改正する条例について
- (12) 12月14日(金) 11月議会
徳島工業、徳島東工業、水産高校を再編統合し、徳島科学技術高校とする県立学校設置条例の一部改正案を可決
- (13) 1月18日(金) 第10回開校準備委員会
平成21年度生徒募集選抜要項、リーフレット、校歌・校章
各コースに関する資格、教育課程、教育内容について 等

2 来年度の実施予定

開校に向けた詳細なスケジュールを策定し、校章・校歌、入学者選抜要項をはじめ、ソフト面、ハード面からの統合に向けた具体的準備作業を進める予定。

オンリーワンハイスクール パワーアップ事業

平成19年度オンリーワンハイスクール ステップアッププロジェクト実施校テーマ一覧

	学 校 名	プ ロ ジ ェ ク ト テ ー マ	分野
1	城ノ内高校	吉野川の総合的な研究 - 環境保全活動のリーダーの育成 -	
2	城西高校	眉山から学ぶ環境教育 ～ 城西高校「そよかぜ」ネットワーク2007 ～	
3	城西高校 神山分校	地域との連携による環境教育を生かした魅力ある里山と芸術の町づくりのための取り組み ～大栗山(おおあわやま)に学ぶ～	
4	徳島商業高校	「人間力向上を目指した徳商(TCS)ブランド化計画」 ～ 個々のアイデンティティを確立し、地域と連携・貢献できる人材の育成～	
5	小松島高校	「地域が元気だ、学校も元気だ！」 - 地域と私たちのワークショップ、地域貢献型体験学習 -	
6	小松島西高校	「心」を育てるキャリア教育	
7	阿南工業高校	ものづくり技術や伝統芸能を生かし、地域理解・地域貢献を目指す交流活動	
8	水産高校	「海・船・魚」をテーマとした、自主的・創造的な活動および地域との連携の実践	
9	鳴門高校 (全日制)	ドイツ&NARUTO ～ 芸術・文化の再発見と新たな発信～	
10	川島高校	地元吉野川市の地域研究をとおした文化的な地域貢献・情報発信事業 ～ 自主研究グループの育成と地域の調査研究拠点づくりをめざして～	
11	阿波農業高校	あわのうブランドの開発に関する取り組み ～ 阿波農エコロジカル・アグリハイスクール宣言～	
12	貞光工業高校	地域社会との連携による工業科教育の推進とその成果を生かした地域貢献活動の実践	
13	三好高校	『バーチャルICTスクール三好』開校による学校力の向上を目指した取り組み ～ ICTの利用・教材コンテンツの開発による学び支援と情報発信～	
14	池田高校 (定時制)	モノを作ることから得られるもの ～ 定通連美術作品展に向けた作品制作を通して～	
15	盲学校	視覚障害教育において、豊かな人間性を培い生きる力をはぐくむための芸術文化に関する表現活動を推進し、特別支援教育と地域の文化の創造拠点をつくる	
16	国府養護学校 池田分校	感動する心を地域と分かち合う学校づくり	

地域連携 芸術・文化 学術・技術

SSH（城南高校）

1 事業題目

徳島県立城南高等学校における「基礎的な実験実習の充実，大学等との連携，また地元の科学施設や民間企業の研究施設の有効利用と，21世紀の国際化に対応できる人材の資質として求められる独創性，創造性を涵養するための指導方法や教育課程についての研究」

2 これまでの経緯

- ・平成15年度より3年間のSSH指定を受け，普通科進学校における理数系教育の充実を目指して教育課程の研究等に取り組んできた。
- ・平成18年度に「応用数理科」を設置し，さらに踏み込んだ発展的な理数系教育を展開。
- ・平成18年度～平成22年度の5年間，SSH校としての継続指定を受ける。
- ・応用数理科（小学科）では，数学と理科の科目は全て理数科目及び学校設定科目として実施。学校設定科目として，「基礎実験（1単位）」，「総合科学（2単位）」，「科学英語（2単位）」，「数学特論（2単位）」，「物理科学（2単位）」，「物質科学（2単位）」，「生命科学（2単位）」，「地球・天体科学（2単位）」を設定。

3 平成19年度の研究開発の内容

理科・数学に重点をおいた教育課程・教育内容の研究

学校設定科目として，1年生「基礎実験」，2年生「総合科学」，「数学特論」，3年生「物理科学」，「物質科学」，「生命科学」，「地球・天体科学」，「数学特論」を実施。

理数分野での独創性・創造性を養う指導法の研究

課題研究について内容やまとめ方について研究し，発表会を実施。

大学等の研究機関や企業との連携の在り方の研究

主に徳島大学，鳴門教育大学と密接に連携して，より効果的な授業の持ち方等を研究。また，企業や科学館との連携の在り方を検討。

国際性を高めるための科学英語の発展的研究

「科学英語」では、平常は科学雑誌等を題材として読解を行う。また、鳴門教育大学学校教育学部自然系（理科）講座に在籍する外国の理科教員による講義・実験指導を行う。さらに海外研修を実施する。（NASA研修）

講演会や徳島城南塾による専門意識や倫理観高揚の研究

トップ講師による講演会や、徳島城南塾での講演会、授業を実施することにより、興味・関心を高め、倫理観の高揚を図る。

園瀬川総合調査による総合学術調査など、野外実習の指導法の発展的研究

園瀬川の総合学術調査や、地質、化石に関する野外実習・観察の在り方について検討。

SSH部活動の振興

SSH部の運営や、文化祭、発表会の取組、科学展への出品について検討。

SSHにふさわしい「総合的な学習の時間」の在り方の研究

理数分野につながる職業意識や倫理観の高揚を図り、自主研究への取組等について検討。

SSH他校との交流

他県のSSH校との交流を図り、意欲や関心を高める。

先進校の視察、教員研修

先進校への視察や教員に対する研修会に参加し、指導力を高める。

SSH通信の発行など、広報活動の研究

取組や研究成果をSSH通信に掲載し、県内教育機関及び地域社会へ周知、HPで公表。

運営指導委員会の開催

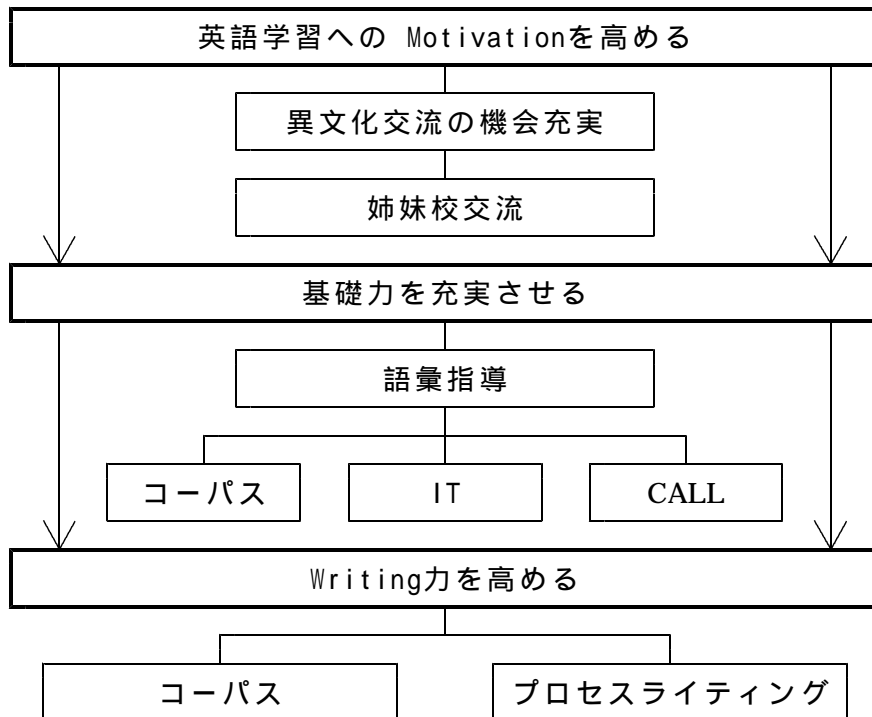
運営指導委員会を開催し、事業の適切な評価及び研究の方向性等を確認。

SELHi (名西高校)

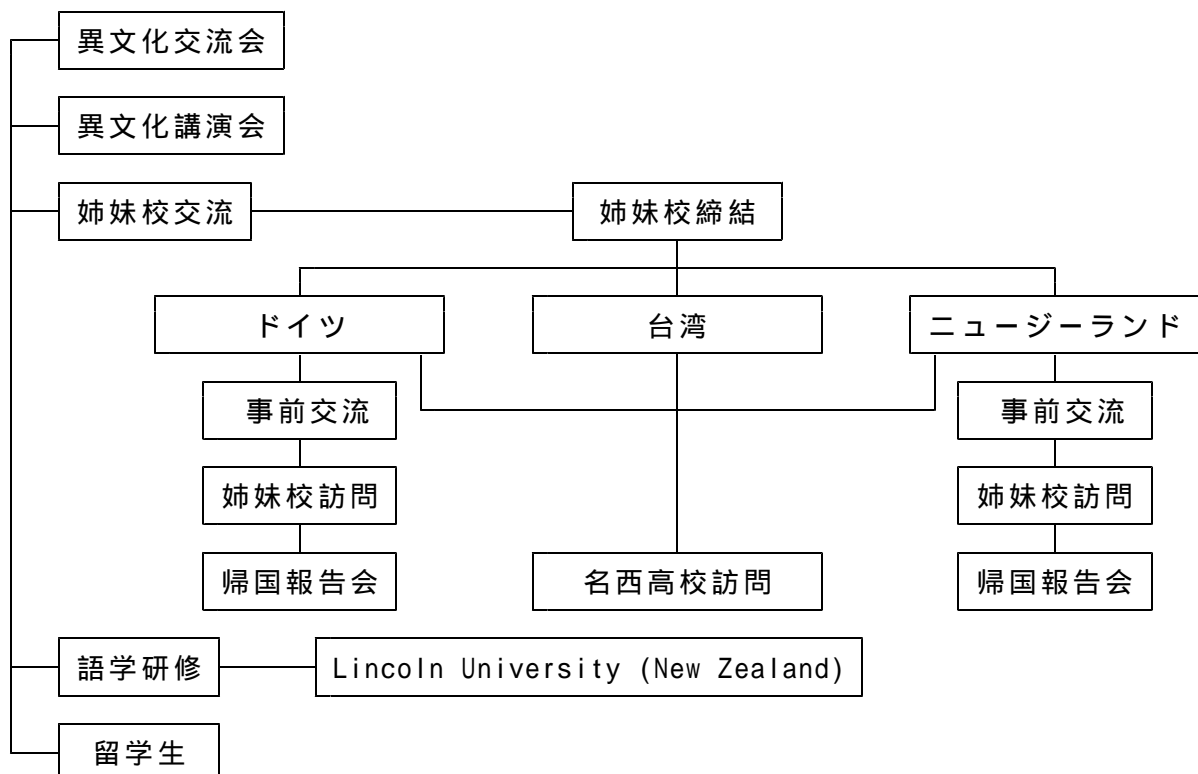
研究テーマ

異文化交流を通して英語学習へのMotivationを高め，コーパスを活用して基礎力を充実させ，ライティング力を向上させるための指導法の研究

名西高等学校SELHiイメージ図



英語学習へのMotivationを高めるための異文化交流の充実

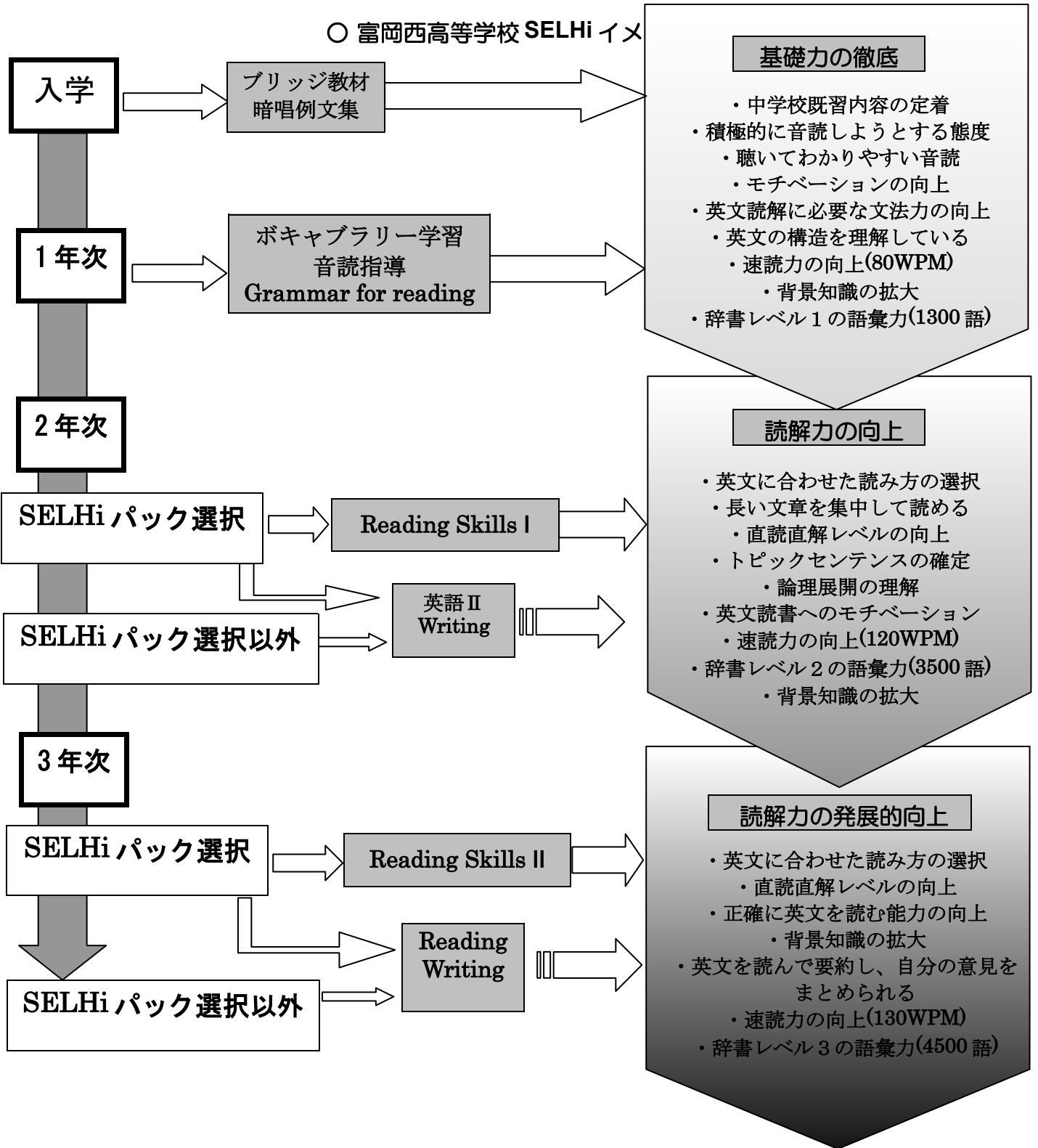


SELHi (富岡西高校)

○ 研究テーマ

中高英語のブリッジ教材を研究・作成し、高校入学時における指導を強化することによって基礎力の充実を図り、リーディング力を向上させるための指導方法及び単位制を活かした教育課程の研究

○ 富岡西高等学校 SELHi イメ



速く正確に英文が読める生徒

進路指導・学力向上重点校

徳島県立徳島商業高等学校

1 現状

本校では、将来のビジネススペシャリストの育成に向けて、基礎的・基本的な知識・技術の取得をめざした授業の質・量の確保に努めるとともに、授業研究の実施や独自の起業家教育等を展開してきた。

その結果、ビジネスマナーの取得や情報機器等の操作には一定の成果が認められるものの、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、及び、普通科目における基礎知識の充実については十分とは言えず、また、生徒自身が自らの進路目標に向けて地道に努力しようとする意欲に乏しい面も見られる。

そのような現状を踏まえ、生徒一人一人の学力向上をめざし、引き続き指導の充実を図らなければならない。

2 進路指導及び学習指導の充実，授業力の向上について

【重点目標】

- ・自らの考えや主張を的確にまとめ発表・提示する表現力の育成
- ・情報を素早く判断・処理し正確に理解する能力の育成

【具体的取組】

- ・各教科科目において基礎的・基本的知識を身につけさせると共に表現力を高める指導方法を研究する。
- ・毎日のS H Rを利用して伝達及び聞き取りメモ学習をさせる。

3 長期休業日等の弾力的運用について

【重点目標】

- ・専門的な知識・技能の習得
- ・基礎学力の向上

【具体的取組】

- ・資格取得，大学等進学に向けて始業前，放課後，土曜日，夏季休業日中に補習授業，個別指導を実施する。

4 家庭との連携について

【重点目標】

- ・保護者に対する本校教育の積極的なPR
- ・保護者の教育力（人的資源）の活用

【具体的取組】

- ・学校行事や授業の公開を行う。
- ・HPを利用した情報提供や意見交換の場を設定する。
- ・専門的な知識・技術を持つ保護者をゲストティーチャーとして迎え講義を行う。

徳島県立富岡東高校羽ノ浦校

1 現状

本校は、5年一貫看護師養成課程としての県下で唯一の看護科である。生徒は全県下より集まっており、それぞれに明確な目的意識を持って入学している。しかし看護師に対する憧れのみで入学している生徒も多く、入学後科目数の多さや内容の難しさと直面し意欲低下をきたす傾向もみられる。またそのことに伴い、生活面での乱れも起こっている。

クラスを2つに分け、少人数指導を実施しているが、その中でも生徒の理解度の差が大きく指導が困難である。週課題等で家庭学習の充実を図っているが、日々計画的に学習できている者は少なく、今後の課題となる。

2 進路指導及び学習指導の充実、授業力の向上について

【重点目標】

- ・生徒が授業への充実感を高められるように授業研究に取り組むとともに、生徒自身が主体的に学習する習慣を確立できるよう創意工夫する。

【具体的取組】

- ・授業公開や教員研修会、授業評価を通じて、教員の指導力の向上を図る。
- ・各テストを計画的に実施し、生徒に学習の具体的目標を持たせ、またその結果を生徒自身が学習に生かされるように個別指導の充実を図る。

3 長期休業日等の弾力的運用について

【重点目標】

- ・生徒のモチベーションの維持・向上を図るとともに、家庭学習に対する意識を向上させる。

【具体的取組】

- ・家庭学習の充実を図る。
- ・将来、専門職につく者として看護観の育成を図るため、授業や行事等の創意工夫を図る。

4 家庭との連携について

【重点目標】

- ・教職員全員で共通理解を図り、遅刻の防止と日常の礼儀・マナー、挨拶の励行に努める。

【具体的取組】

- ・生徒にチャイム（時間）を守る習慣を身につけさせる。
- ・教員による清掃・礼儀・マナー指導を徹底する。
- ・生徒会による礼儀・マナーに関するアピールや挨拶運動を積極的に展開する。
- ・各HRで「礼儀・マナー、挨拶、時間を守る」ことの必要性について話を合わせる。

徳島県立富岡西高等学校

1 現状

実践研究1年目は、年度途中からの実践研究であったため、研究推進の構想整備と具体的方策への着手を同時に進めることになった。そのため平成18年度は各方策を模索的に実践することに終始しがちになり、組織的な取り組みを十分機能させるまでには至らなかった。また、本校の生徒実態は、平成19年度入学生も含めて従来の本校生とは大きく異なる様相にあることが種々のデータから顕著になっている。この急激に変化している状況下で特に問題となるのは、生徒の学力分布の二極化であり、基礎学力が十分備わっていないまま入学してくる層が多くなっている点である。この生徒実態への対処が急務であり最も重要な課題である。

このようなことから、実践研究は1年目で明確にした指針・観点にもとづき、2年目では、さらなる実態把握・分析を加えたうえで、具体的方策を微調整しながら柔軟な実践が必要である。そのためにも平成19年度では、各実践項目を継続的・発展的に進めるとともに、組織的な実践研究を一層強化する必要がある。

2 進路指導及び学習指導の充実、授業力の向上について

【重点目標】

- ・ 授業力の強化
- ・ 進路支援の強化
- ・ 放課後の充実

【具体的取組】

- ・ 公開授業や授業研究会、授業評価を通じて、教員の指導力の向上を図り授業を充実させる。
- ・ 生徒の進路設計を支援するため、様々なガイダンスを通して生徒に対して進路に関する適切な情報を与え、適切な進路指導を行う。
- ・ 放課後の自主学習・進路情報収集などの生徒活動を活性化させる。

3 長期休業日等の弾力的運用について

【重点目標】

- ・ 土曜日の学習活動支援
- ・ 長期休業中の学習支援
- ・ 進路設計のための情報収集活動の促進

【具体的取組】

- ・ 土曜日の午前中を「学習タイム」と位置づける。
- ・ 夏季休業日の在り方について関係校務分掌で検討する。特に全員補習である1、2年次生への指導法、指導内容等について研究する。
- ・ オープンキャンパスなど進路設計のための情報収集活動を活性化させる。

4 家庭との連携について

【重点目標】

- ・ 家庭学習の確立
- ・ 学校への理解促進
- ・ 有意義な課外活動の促進（読書習慣育成への支援）

【具体的取組】

- ・ 家庭学習時間の増加を図る。
- ・ 基本的な生活習慣の確立。特に遅刻の防止について家庭と連携して行う。
- ・ 広報誌やPTA年次部会、三者面談などを通して、保護者との間で学校の状況について情報を共有するとともに情報交換を活性化する。
- ・ 読書に親しむ態度を育てるよう、図書館の利用や校内読書会・読書週間などの行事の在り方を改善・充実させる。

徳島県立鳴門高等学校

1 現状

- ・生徒が自身の進路について考え始める時期が遅く，進路選択も受動的な傾向が強い。
- ・学習に対する目的意識が希薄で，家庭学習に十分に取り組めていない者が多い。
- ・教職員間の連携が不足し，教科指導，進路指導等への意識のばらつきが大きい。
- ・生徒の進路や学力に関して教職員と地域，保護者との連携が十分にとれていない。

2 進路指導及び学習指導の充実，授業力の向上について

【重点目標】

- ・生徒の進路に関する意識や学習へのモチベーションを昂揚させることで，進路について主体的に考えさせ，家庭学習の習慣を確立させる。
- ・教員間連携の強化と教員個々のスキルアップを図り，組織的で効率的な指導体制を構築する。
- ・「鳴高ビジョン」を達成する。

【具体的取組】

- ・オープンキャンパス，体験授業，大学出張講義等を積極的に活用する。
- ・進路ガイダンス，進路講演会，面談等を充実させる。
- ・進路指導の手法や情報，学習指導資料等の共有化を図る。
- ・教科会，課会等を積極的に開催し，共通理解や連携を深める。
- ・学力向上教職員研修や教員同士の相互授業参観等を実施し，教員間の連携を強化するとともに，進路指導力や教科指導力の向上に努める。
- ・総合学習やLHRで進路についてのガイダンスを実施する。
- ・各種検定受検を推進し，事前指導を実施する。

3 長期休業日等の弾力的運用について

【重点目標】

- ・定期考査と長期休業日とのバランスの見直しを検討する。
- ・課外授業を生徒の実情に合わせて柔軟かつ効率的に実施する。

【具体的取組】

- ・長期休業日等の弾力的運用に関する検討会を開催する。
- ・休日，長期休業日の課外授業を実施する。
- ・冬季早朝補習を継続実施する。

4 家庭との連携について

【重点目標】

- ・進路保護者会の内容を充実させ，出席者数を増加させる。
- ・保護者参加型の学校行事（公開授業等）を定期的を実施する。
- ・保護者向けの進路情報の提供を充実させる。

【具体的取組】

- ・進路保護者会出席への働きかけを強める。
- ・進路保護者会の後にクラス懇談会，個人懇談を実施する。
- ・公開授業，講演会等の案内を保護者にも行う。

学力向上拠点形成事業(高等学校)

徳島県立城東高等学校

1 研究のねらい

近年、授業の後で復習をしない生徒がふえてきている。その結果、知識は正確に定着せず、その知識を論理的に構成して自分の考えを構築し伝えたり、他の人の話を理解する力も低下してきているように思われる。学力の向上のためには継続的に学習することが大切であり、その学習習慣の定着のためには、周囲や本人が学習への強固な動機付けをすることで、主体的な取り組みをさせる。また、家庭学習が学力向上のための最良の方法である事を生徒に認識させることで、着実に学力を向上させる事をねらいとする。

2 研究の概要

本校は、平成12年度から生徒の進路設計をより積極的・自発的に行わせる取り組みとして、ドリカムセミナーを実施してきた。さらに、平成15年度からの「総合学習」の開始と共に、3年間を通して本人の夢を実現するための活動(クエスト)として発展的に位置づけ実施・検証してきた。その結果、生徒たちが自分の目標や夢を確かなものにするには、必要とされる確かな学力の養成が必要であると痛感した。そこで、内的動機付けを、自ら進んで学習しようとする姿勢作りに転換させることが必要であると認識し、家庭学習の習慣づけこそが重要であると考えた。そのための方策として、生徒の学習習慣の定着、意欲向上の実態を正確に把握し、各教師が授業の研究をすることはもちろん指導方法を工夫し、他教科・学年団の教師とデータ、方策などを共有する意識を持ち、その実践に取り組む。

第一年次 定期的に生徒個々の基礎学力・学習意欲・学習習慣を調査する。
家庭学習時間の調査を実施する。
その結果に基づいて学年分析会を実施し、個別の生徒についての理解を共有しながら確かな学力を身につけるために、本校の様々な学習計画に取り組みさせる。年度末評価を実施する。

第二年次 定期的に生徒個々の基礎学力・学習意欲・学習習慣を調査する。
家庭学習時間の調査を実施する。
その結果に基づいて学年分析会を実施し、個別の生徒についての理解を共有しながら確かな学力を身につけるために、本校の様々な学習計画に取り組みさせる。年度末評価を実施する。

第三年次 定期的に生徒個々の基礎学力・学習意欲・学習習慣を調査する。また、生徒個人の進路希望を調査し、生徒の学力・適性を考えながら、それぞれに必要な学習形態・方法を指導することで、より実践的・効率的な家庭学習を促し確かな学力定着へと導く。

徳島県立阿南工業高等学校

1 研究のねらい

本校では、平成15年の学科改編を機に、「ひとづくり」、「ものづくり」、「キャリア教育」を3本柱に教育を行ってきた。今回、3本柱の一つであるひとづくりに焦点を当て、将来職業人として必要な学力と資質を育成すべく、その指導に工夫を凝らし、キャリア教育を充実させることで、生徒自らの学ぶ意欲を高め、「確かな学力」の向上を図る。

18年度は、「確かな学力」の基礎となる思考力・判断力・自己表現能力を育成する指導法として、「マインドマップ法」および「朝の読書」を導入した。また、キャリア教育により、生徒の学習意欲向上を図った。そのなかでマインドマップ法が単なるノート整理技術の一つでなくでなく、思考を高め、自己の問題点を発見し、解決していく上で非常に有効であることが分かってきた。

今年度は、マインドマップ法を応用し、生徒の学力向上を図る指導法と生徒自らの学ぶ意欲を高めるキャリア教育について研究する。

2 研究の概要

マインドマップ法について

18年度は、工業技術基礎及び総合技術において先行的に導入し、生徒自らが自己の問題を分析し、学力の向上へ結びつけていく効果的な学習方法について研究した。19年度は、その成果もとに普通教科やHR活動などにも応用する。また、その成果をみる機会として、校内の発表会をマインドマップ法で行う。

朝の読書時間について

生徒の読解力向上のため朝の読書を導入したが、生徒アンケートの結果からも改善が必要なことは明らかである。19年度は、期間および時間やその内容について、さらなる生徒アンケートなどを実施するなかで、検討・改善を行う。

シラバスについて

昨年度作成したシラバスを生徒にとってさらにわかりやすく見やすいものにするため、内容を再検討し、改善を加える。

キャリア教育について

18年度は、キャリア教育のなかで生徒の学習意欲を向上させるべく、進路セミナーや技術講演会を実施した。19年度は、昨年度までの実践のほか、生徒ひとりひとりがマインドマップ法により自らのキャリアを計画し、3年間のプランをたてたキャリアノートを作成し、それに向かい努力することにより学習意欲の高揚を図る。

職員研修について

18年度の実践から職員研修がこの事業における職員の共通理解を図る上で大きな役割を果たした。また、ワークショップ研修会は、教員自らが生徒の学力向上ため、実践することをさぐる良い機会となった。さらに、講演会ではこの事業を実践していく上でのアイデアも多く頂いた。19年度も講師を招いての職員研修のほかワークショップ形式の研修会を年間3回程度実施する。

徳島県立鳴門第一高等学校

1 研究のねらい

本校では平成15年度に、「普通教育」「専門教育」の両面をさらに充実させることをねらいとし、総合学科への改編を行った。ガイダンス機能や教育課程に重点をおき、生徒自らが時間割を構築し、個々の進路に即した授業選択の中で単位取得をしていくことで、明確な進路意識や達成感、個性の伸長等に効果を発揮してきた。その結果、総合学科として初めての卒業生を送り出した昨年度、進学、就職の両面において過去にない進路先を開拓することができた。このことは、従来より引き継がれてきた生徒指導を中核に据えた学校経営と、個々の進路に直結した教育課程を可能にした総合学科との調和が生み出した結果と捉えている。今後も、社会人として必要とされる各種の力を養成し、生徒一人ひとりの基礎学力を向上させることで、自分らしい生き方に対する認識の深化や社会に貢献できる人材の育成につなげることをねらいとする。

平成19年度は、「学び方を学ぶ」「生き方を模索する」ことに重点を置き、「読む力、聞く力、調べる力、まとめる力、発表する力」と「基礎学力」の育成を通して、社会に貢献できる人材育成につなげていくことをねらいとする。

2 研究の概要

平成18年度の内容を継続しつつ、「学校外学修」による増単位認定を実施し、意欲の向上を図る。また、「アサーショントレーニング」の導入による精神面での成長を図る取り組みを実施する。

i) 研究内容

- ・「読む力、聞く力、調べる力、まとめる力、発表する力」の育成
- ・「基礎学力」の育成

) 研究方法

- ・「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」「朝の読書」「ホームルーム活動」などを利用しての実践研究を行う。
- ・各課、各教科で教育目標を策定し、PDCAサイクルにより改良する。

) 研究の実施体制

- ・「PYプロジェクト(学力向上検討委員会)」を中心とし、各課の協力を得ながら、各年次ごとに研究を実施。

徳島県立池田高等学校

1 研究のねらい

本校の現状・課題として、第1学年からの進路意識の高揚及び学力向上に向けた取り組みの促進、多様に展開される個別指導の体系化がある。

そのため研究は、早期からの進路意識高揚の指導方法を確立することを目標とした。また、第1学年における学習習慣の定着や学習意欲の向上のための個に応じた指導方法を確立し、効率よく基礎・基本を習得させるための教材等の工夫を探究することを目標とした。

多様に展開される個別指導の体系化の研究では、教科・部活動・クラブ等での取り組みを整理し、個に応じた指導のための指導方法・サポート体制の確立、教材等の工夫について研究することを目標とした。また、本校の個別指導を家庭や地域に広報するとともに、保護者用シラバスにより保護者のニーズや考えを把握するなかで、研究を進めた。

平成19年度は、「早期指導の組織化」及び「個別指導の体系化」について、平成18年度の研究成果と課題を検証し、「早期指導」・「個別指導」を校内のシステムとして確立する研究を深める。そのため、「早期指導」・「個別指導」の研究と教育課程との関連を明確化するとともに、校内における研究内容の共有化を進める。

また、多様に展開される「個別指導の体系化」の研究では、教科・部活動・クラブ等での取り組みを再度検証し、個に応じた指導のための指導方法・サポート体制の充実、教材等の工夫について研究することを継続する。また本校の個別指導を広報するとともに、保護者用シラバスによって、保護者のニーズや考えを把握するなかで、研究を進める。

2 研究の概要

研究の実施スケジュールとして、第1・3年次に主に「早期指導の組織化」について研究・比較し、3カ年を通じて、分野別に「個別指導の体系化」について研究するとしたが、「早期指導の組織化」について、第2年次も継続して研究する。対象とする学年は、第1学年で「早期指導の組織化」について、第1年次の研究をもとに、基本的な知識・技能の定着を重点に、確かな学力の育成のため指導の研究を計画的に行う。

また「個別指導の体系化」は、小集団での特色ある個別指導の内容・方法について研究を深め、個に応じた自ら学び自ら考える力の育成を目指す。平成19年度の研究対象となる教科は、「国語」・「理科(サイエンス部)」で、HR・部活動・クラブ等を中心とした小集団を基本とする。対象となる学年は全学年である。さらに、自ら学び考える力を高めるため、大学及び学校外の各分野のスペシャリストを活用する。

研究の実施体制は、学力向上検討委員会を中心とする。平成19年度の研究の実施スケジュールは、7月～8月の中間評価による改善をもとに、研究を進める。教員の指導力向上については、研究・公開授業や授業研修の充実、先進地視察を実施するとともに、平成18年度の本校の中間報告書とその後の研究に基づき、研究成果についての中間発表会を実施する。

目指せスペシャリスト(スーパー専門高校)

【 小松島西高校 】

【 商業科 】

テーマ「産業界が求める人材育成」

取組

- ・地元自治体と地元企業との連携によるすだちムースの商品化
- ・地域産品を使ったクリスマスケーキの商品化
- ・認証システムの確立・運用（4品目認定）
- ・デザイナー，アナウンサー，ライター，料理人による専門指導

成果

おからアイスクリームは，(有)マイスター社の提出により，経済産業省の地域資源活用プログラム認定商品の徳島県第1号認定となる。

【 食物科 】

テーマ「ミニカフェの運営とライフステージに応じた料理の研究」

取組

- ・1・2年生の集団給食実習を実施（従来は3年生のみ）
- ・食事バランスガイドの利用方法を指導
- ・文化祭において校内教職員，生徒を対象にミニカフェ実施

成果

校内でのミニカフェ運営は成功を収める。この経験をもとに，地域に開かれたミニカフェのオープンに向けて取り組む。

【 生活文化科 】

テーマ「アパレルCADの活用と徳島の高校生からの衣生活の提案」

取組

- ・アパレルCADを用いたパターン作成の研究
- ・ロゴマークの研究
- ・専門学校，地域との連携，交流

成果

視覚・感性・創造・発想などあらゆる角度から，生徒一人ひとりの個性や能力，興味・関心に応じた学習を展開した結果，生徒対象のアンケートより，授業への満足度が上昇したことが明らかとなった。

【 福祉科 】

テーマ「地域福祉における企画力向上の研究」

取組

- ・糖尿病に関する実態調査や県・市町村の取り組みに関する情報収集
- ・外部講師を招聘しての社会福祉制度や生活習慣に関する特別講義
- ・ミニカフェでの移動介助や食事介助，四国アイランドリーグ野球観戦援助

成果

地域との連携を積極的に取り入れた学習を展開した結果，生徒対象のアンケートより，高校入学時とは大きく自己評価が変化していることが明らかとなった。

高校再編の進捗状況

平成 20 年 3 月 19 日現在

新しい学校づくり鳴門市地域協議会

第 1 回	H18.10. 10(火)	・高校再編方針について及び地域の高校の概要など ・新しい学校の教育について
第 2 回	H18.12. 20(水)	・新しい学校の教育について (学校像, 生徒像, 設置学科など)
第 3 回	H19. 6. 27(水)	・新しい学校の教育について (総合学科と体育科の教育内容など)
第 4 回	H19.11. 14(水)	・新しい学校の教育環境の整備のあり方について
第 5 回	H19.12. 18(火)	・報告書の取りまとめについて

報告書提出 12 月 26 日(水)

新しい学校づくり阿南市地域協議会

第 1 回	H18. 10. 11(水)	・高校再編方針について及び地域の高校の概要など ・新しい学校の教育について
第 2 回	H19. 1. 15(月)	・新しい学校の教育について (学校のあり方, 学科など)
第 3 回	H19. 8. 6(月)	・新しい学校の教育について (阿南地域の現状と課題, 学校像, 生徒像など)
第 4 回	H19.12. 19(水)	・新しい学校の教育について (学校像, 生徒像, 設置学科, 教育内容など)
第 5 回	H20. 3. 7(金)	・新しい学校の教育について (特色ある教育, 教育内容など)

新しい学校づくり吉野川市・阿波市地域協議会

第 1 回	H18.10.29(日)	・高校再編方針について及び地域の高校の概要など ・新しい学校の教育について
第 2 回	H19. 1.11(木)	・新しい学校の教育について (学校像, 生徒像, 学科など)
第 3 回	H19. 5.29(火)	・新しい学校の教育について (商業科, 農業科併設のメリットを生かした教育など)
第 4 回	H19. 7. 27(金)	・新しい学校の教育について (設置小学科及び学校間連携について など)
第 5 回	H19.10. 22(月)	・教育環境の整備のあり方について
第 6 回	H19.12. 10(月)	・報告書の取りまとめについて

報告書提出 12 月 18 日(火)

「鴨島商業高校・阿波農業高校の再編統合に係る計画(案)」パブリックコメント 2/8 ~ 3/10

新しい学校づくり美馬市・つるぎ町地域協議会

第1回	H18. 9. 4(月)	・高校再編方針について及び地域の高校の概要など ・新しい学校の教育について
第2回	H18. 11. 6(月)	・新しい学校の教育について (学校像, 生徒像, 学科など)
第3回	H19. 6.22(金)	・新しい学校の教育内容について (既存の学科及び看護学科など新設学科について その1)
第4回	H19. 9. 3(月)	・新しい学校の教育内容について (既存の学科及び看護学科など新設学科について その2)
第5回	H20. 2. 1(金)	・新しい学校の教育内容について (設置学科と教育内容など)
第6回	H20. 3. 19(水) (開催予定)	・報告書の取りまとめについて

新しい学校づくり三好市・東みよし町地域協議会

第1回	H19. 7. 20(金)	・高校再編方針について及び地域の高校の概要など ・新しい学校の教育について
第2回	H19. 8. 29(水)	・新しい学校の教育について (学校像, 生徒像, 特色ある教育など)
第3回	H19.11. 1(木)	・新しい学校の教育について (学校像, 生徒像, 特色ある教育, 学科・コースなど)
第4回	H20. 2. 22(金)	・新しい学校の教育について (学科・コースの教育内容など)

学校活性化勝浦郡地域協議会

第1回	H18. 8. 11(金)	・高校再編方針について ・勝浦高校の現状と活性化について
第2回	H18. 10. 17(火)	・新しい学校のあり方について
第3回	H19. 6. 1(金)	・新しい学校のあり方について (教育の基本コンセプトなど)
第4回	H20. 2. 12(火)	・新しい学校のあり方について
第5回	H20. 3. 17(月)	・報告書の取りまとめについて

学校活性化那賀町地域協議会

第1回	H18. 8. 9(水)	・高校再編方針について ・那賀高校の現状と活性化について
第2回	H18. 10. 25(水)	・那賀高校の活性化について
第3回	H19. 1. 16(火)	・那賀高校の活性化について
第4回	H19. 6. 29(金)	・那賀高校の活性化について(報告書取りまとめ)

報告書提出 7月13日(金)

「那賀高校の活性化に係る計画(案)」パブリックコメント 8/10～9/10

平成19年11月「那賀高校の活性化に係る計画」策定

携帯電話の利用についての注意

いじめ問題等対策企画員室

今や携帯電話は日常生活に欠かせない便利なものとなりました。中でも携帯電話によるインターネットは、いつでもどこでも情報を発信したり、受信したりすることができます。

しかし、迷惑メール、個人情報の漏えい、出会い系サイトの危険など、トラブルや犯罪が多発していることも事実です。県内においても、女子生徒が出会い系サイトの被害に遭っており、学校内でも、友だちを誹謗中傷するなどいじめ問題に発展している事例もあります。

子どもたちに携帯電話の正しい使い方を理解させ、携帯電話に関わる犯罪の被害者・加害者にしないためにも、家庭や学校でも、次のようなことについて理解を深めていく必要があります。

出会い系サイト

出会い系サイトにアクセスし、相手と実際に会い、性的被害や暴力などの被害に巻き込まれるケースがあります。

プロフィール

自己紹介のホームページを作れるサイトで、中・高生の間で名刺代わりにプロフィールのアドレスを教え合うことがはやっています。中・高生は個人情報の認識が薄いので、その流出や悪用が問題となっています。また、個人を中傷したりする書き込みがあり、トラブルのもとになっています。

有害情報

アダルト、暴力、薬物など、子どもにとって有害なサイトもたくさんあります。心身の発達に大きな悪影響を及ぼす場合があります。

学校裏サイト

学校の公式サイトとは別に、生徒たちによって立ち上げられた学校内の情報交換を目的としたサイトです。中には、「年組のはきモイ」など、誹謗中傷する内容により、集団的ないじめに発展する場合があります。

フィッシング詐欺

偽サイトにパスワードなどの個人情報を入力させ、そのパスワードで本人になりすまして、有料サイトにアクセスするという犯罪が発生しています。また、個人情報を教えたため、注文していない商品が届いたりするケースもあります。

インターネット依存症

今や携帯電話が中・高生にとってパソコン代わりになっており、携帯電話を触っていないとイライラしたり、自分の感情をコントロールできなくなったりするインターネット依存症が問題となっています。悪化すると現実の人間とコミュニケーションができなくなるほど、日常生活に支障をきたすこともあります。

相手を思いやり、自分自身を守り、マナーやルールを守らせる。

携帯電話には、多くの個人情報が入力されており、盗難等に遭わないよう管理させる。

事件性があるときは、警察等に連絡し、相談する。

徳島県学校改善支援プラン

課題解決に向けた基本的な考え方

～ みんなでする つづけてする とことんする ～

みんなでする

学力調査において課題となった学力の向上は、ともすれば小学校では調査対象学年だけの問題として、中学校では調査対象教科である国語科・数学科だけの問題としてとらえられがちである。決してそうではなく、すべての学年で取り組むことはもちろん、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間など、学校の教育活動全体をとおして取り組まなければならない。

各学校においては、このことを教職員、「みんな」で共通理解し、組織的に取り組んでいくことが重要であり、児童生徒同士も、「みんな」で高め合い、ともに伸びていくことができるようにする。

また、課題となった生活習慣等の改善については、学校だけに任せるのではなく、学校・家庭・地域社会・教育行政、「みんな」が連携して取り組むようにする。

つづけてする

今回、特に課題がみられた「知識・技能等を実生活に活用する力」や生活習慣は、一朝一夕に身に付くものではない。就学前における教育も含め、小学校6年間、中学校3年間を見通した系統的な取組が必要であり、幼小中高の校種間においても連携を強め、「つづけて」取り組むようにする。

また、学校で学んだことを家庭でも「つづけて」学習し、それを学校での学習に再び生かしていくなど、学校と家庭がリンクした学習の在り方についても工夫する必要がある。

「継続は力なり」といわれるが、学校の教育活動の改善についても、あきらめずに「つづけて」取り組むことが重要である。その際、適宜自己評価等の検証を行うことで、成果と課題を明らかにしていく。

とことんする

各学校においては、例えば放課後を利用した補充的な学習サポートを実施するなど、児童生徒一人ひとりの課題に応じた指導を根気強く行っている。

本県小学校 57.6 % (全国平均 40.9 %), 中学校 67.8 % (全国平均 55.4 %)

今回の学力調査からも児童生徒一人ひとりの課題が明らかになっているが、それぞれの児童生徒の特性を配慮した上で、個に応じた熱意ある指導を「とことん」行う。その際、知識・技能等の「基礎的・基本的な力」と「思考力・判断力・表現力」を、ともに育成していくという視点が必要である。

また、学校の教育活動の改善についても、PDCAのマネジメントサイクルにより、常に検証・改善を図りながら、かけがえのない存在である児童生徒一人ひとりのために愛情をもって「とことん」取り組むようにする。

課題解決に向けた「徳島県版：『学力・学習状況』改善サイクル」の確立

本年度から全国の小学校第6学年，中学校第3学年の全児童生徒を対象とした「全国学力・学習状況調査」が継続して実施されることとなった。

その調査目的は，各教育委員会，学校等が，全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し，その改善を図るとともに，このような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することとされている。

本県においても，各教育委員会はもちろん，すべての学校において，調査結果に基づき，教育施策や教育活動の検証改善をPDCAのマネジメントサイクルにより継続して行い，本県児童生徒の確かな学力の育成につなげていく。その際，本県が独自に展開している「徳島県学力向上推進事業」の成果や課題をふまえ，「徳島県版：『学力・学習状況』改善サイクル」を確立したい。



年間を通じて，このマネジメント・サイクルを繰り返し実施することで，新たな課題を把握し，改善を推進する。

徳島県版：「学力・学習状況」改善サイクルの確立に向けたステップ

- 1 学力調査結果を活用した課題把握
- 2 学校版：「学力・学習状況」改善プランの作成
- 3 学校版：「学力・学習状況」改善プランに沿った取組の推進
- 4 チェック体制の構築と積極的な改善

1 学力調査結果を活用した課題把握

学力調査結果を効率的に集計・分析できないか。

【県教委の支援 1】

- ・各学校において学力調査結果を集計・分析できるソフトの開発・提供

2 学校版：「学力・学習状況」改善プランの作成

学校が効果的，計画的に取り組むためのプランづくりはどうすればよいか。

【県教委の支援 2】

- ・学校版：「学力・学習状況」改善プランの作成方法等の提示

3 学校版：「学力・学習状況」改善プランに沿った取組の推進

(1) 課題がみられた学力を育成するための研修及び授業改善

研修及び授業改善は具体的にどのようにしていけばよいか。

【県教委の支援 3】

- ・校内及び各機関における研修内容の充実と優れた実践例の紹介
- ・授業改善のポイントや優れた実践例の紹介

(2) 児童生徒一人ひとりの課題に応じた学習指導の充実

児童生徒一人ひとりの課題に応じた学習指導に効果的な教材はないか。

【県教委の支援 4】

- ・学力調査結果に基づくフォローアップ教材の開発・提供

(3) 課題がみられた生活習慣等の改善

課題がみられた生活習慣等の改善は，どのように進めればよいか。

【県教委の支援 5】

- ・フォーラム等の開催，広報紙やホームページ等による啓発

(4) 子どもに向き合う時間の確保

児童生徒にかかわる時間をどのように確保すればよいか。

【県教委の支援 6】

- ・児童生徒にかかわる時間の確保についての検討

4 チェック体制の構築と積極的な改善

学校間の取組のばらつきをどのように解消すればよいか。

【県教委の支援 7】

- ・「学力向上に関する自己評価シート」の提供
- ・「学力向上のための取組に関する調査」の継続実施

徳島県教育振興計画の概要（案）

基本理念

平成20年度から平成29年度までの10年間を見通した本県教育の基本理念

生涯にわたる「学び」の中で、時代の変化に対応し、自己実現をめざす人を育てます

社会全体で教育力の向上に取り組み、豊かな社会の創造に参画できる人を育てます

郷土に誇りを持ち、国際的視野に立って行動できる人を育てます

基本目標

基本理念を実現するための本県教育の基本目標

郷土に誇りを持ち、社会の一員として自立した、たくましい人づくり
～地域の個性に根ざし、未来を拓くオンリーワン教育の実現～

施策の基本的方向

基本目標を達成するため、平成20年度から平成24年度までの5年間に、次の基本方針により、総合的、効果的な施策を展開する。

基本方針	施策（例）
第1 社会全体で取り組む教育の実現	<ul style="list-style-type: none"> 学校・家庭・地域の連携の推進 地域の教育力の活用 幼児期における教育の充実 産業界や高等教育機関との連携の推進
第2 未来にはばたく力をはぐくむ教育の実現	<ul style="list-style-type: none"> 「確かな学力」の育成 「豊かな心」の育成 「健やかな体」の育成 特別支援教育の充実 社会の変化に対応する教育の推進
第3 信頼される教育環境の実現	<ul style="list-style-type: none"> 活力と魅力ある学校づくり 私立学校の振興 教職員の資質の向上 安全・安心な学校づくり 教育の組織運営体制の充実
第4 人権尊重社会をめざす教育の実現	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育における人権教育の充実 社会教育における人権教育の充実 教員の指導力の向上 社会人権教育推進者の資質の向上
第5 みんなが学べる生涯学習社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> 多様な学習機会の提供 学びの環境の充実 郷土に根ざした学びの推進 生涯学習推進体制の充実
第6 豊かなスポーツライフと人・地域が輝く「あわ文化」の実現	<ul style="list-style-type: none"> 生涯スポーツの振興 競技スポーツの振興 文化遺産の発掘と継承 「いにしえ夢街道」の構築